

まちづくりとユニバーサルデザイン

第4分科会 岡 村 昌 和

1.はじめに

島根県技術士会研究部会第4分科会「まちづくり」では、ユニバーサルデザインの先進地視察をテーマに取り上げ、平成14年9月21日、22日の両日で大阪府堺市、兵庫県伊丹市並びに神戸市の施設について視察した。

テーマとしたユニバーサルデザインとは、構想、計画、設計等において全ての人のためのデザインであり、年齢、性別、身体、言語など、人々が持つ様々な特性や違いを超えて、できるだけ全ての人が利用しやすい、全ての人に配慮した環境、建物、製品等のデザインをしていくとした考え方である。このため、障害を取り除くことを主眼としたバリアフリーとは若干考え方が異なっている。本稿では、その視察状況を述べるとともに、本分科会の今後の取り組みについて述べるものとする。

2. 視察施設等の状況

視察研修では、第1日目に大阪府堺市で行われた日本福祉のまちづくり学会関西支部・日本人間工学関西支部共催企画である見学会とシンポジウムに参加し、第2日目に兵庫県にあるユニバーサルデザインの2施設を視察した。

2.1. ビックアイ（国際障害者交流センター）の状況

見学会は、大阪府堺市にある「ビックアイ（国際障害者交流センター）」で行われた。「ビックアイ」は、障害者のより一層の社会参加を願い、広い空間を確保したバリアフリー仕様の宿泊室、車椅子席が最大300席設けられる多目的ホールを備えた施設であり、移動空間における工夫や誰もが使いやすい施設案内のためのサイン等が配慮されていた。特に、興味深かったのは宿泊施設における非常時の配慮であり、非常に振動させて異常を知らせるベットや廊下等に設けられた非常時の避難経路を知らせる誘導フラッシュの設置等であった。

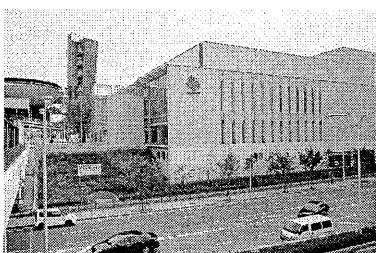


写真1.ビックアイ全景

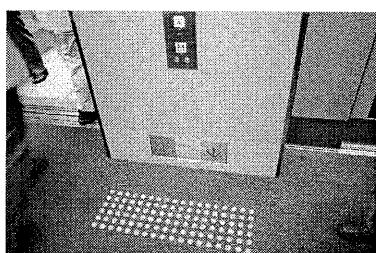


写真2.EV フットボタン

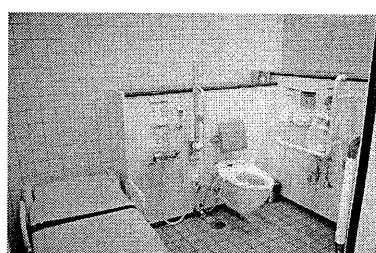


写真3.トイレその1



写真4.トイレその2

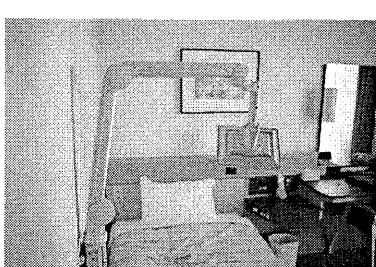


写真5.障害者対応ベット

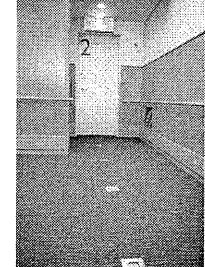


写真6.誘導フラッシュ

2.2. シンポジウムの状況

「交通バリアフリーへの人間工学からのアプローチ」と題したシンポジウムでは、両学会の最初の試みとして企画され、各分野の現状に対する問題提起や取り組み事例について発表された。その具体的な内容は次の通りである。

- ①問題提起1：交通バリアフリーの現状・・・三星昭宏（近畿大学 土木工学科）
- ②問題提起2：人間工学と福祉のまちづくりの接点
・・・岡田 明（大阪市立大学大学院科生活学研究科）
- ③福祉のまちづくり事例：ターミナル空間とサイン環境のユニバーサルデザイン
・・・田中直人（摂南大学 建築学科）
- ④鉄道施設・設備の応用研究：鉄道駅ホームにおける触知表示の改善に向けて
・・・大野央人（鉄道総合技術研究所 人間工学研究室）
- ⑤鉄道施設におけるバリアフリーの取り組み・・・堀畠裕一（近畿日本鉄道 施設部）
土木分野の現状は、公共空間のユニバーサルデザインについて社会基盤整備側と人間工学側の連携が遅れており、その連携が今後の重要な課題であるとのことであった。
また、人間工学においては人間の心身特性における計測とデータの蓄積はあるが、そのデータを使って適切な設計値を決める技術の体系化ができていないとのことであった。
さらに、鉄道施設の取り組みの事例においては具体的な駅舎改造の例が事業者から発表があり、現場の苦労が感じられた。

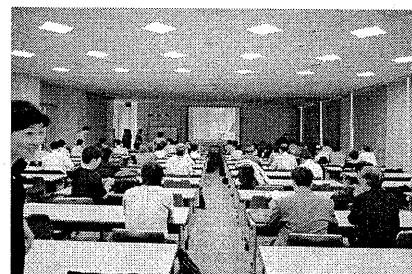


写真7. シンポジウム会場

2.3. 阪急伊丹駅の状況

兵庫県伊丹市にある「阪急伊丹駅」は、阪神・淡路大震災により立て替えを余儀なくされるほどの被害を受け、その周辺の地区を含め災害に強いまちづくりとあわせて「福祉」のまちづくりに視点を置いた整備が行われた。整備計画においては、計画段階から体に障害を持つ利用者の意見を収集し、また検討委員として障害当事者が討論に参加し、当事者・電鉄会社・行政・専門家が協同してそれを計画に反映された施設である。

計画が十分検討されているため、ハード面に対しては各々の施設が利用者に対して良く配慮されていると感じた。また、駅周辺においてバリアとなる放置自転車が見られなかった。これは、地下駐輪場が整備されているだけでなく、放置自転車条例が制定されており、ボランティアの監視と地下駐輪場への誘導によるものである。このようなソフト面の体制づくりが、今後重要となっていくと思われた。

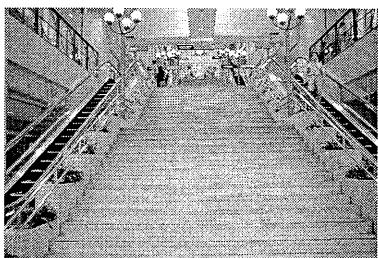


写真8. 階段とエレベーター

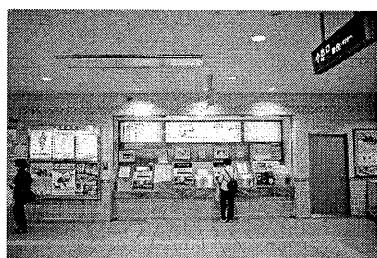


写真9. 券売機（遠景）



写真10. 券売機（近景）

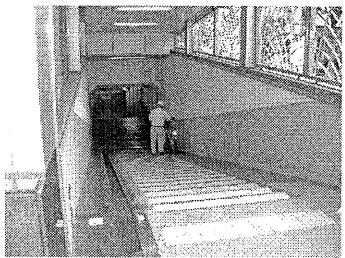


写真 11. 地下駐輪場階段

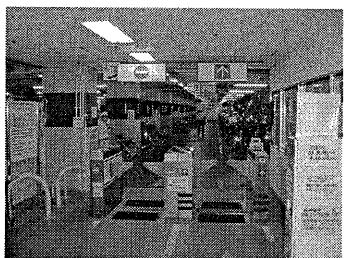


写真 12. 駐輪場ゲート

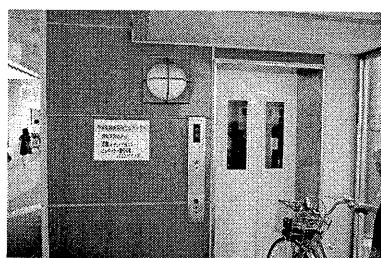


写真 13. 駐輪場 EV



写真 14. 地下駐輪場

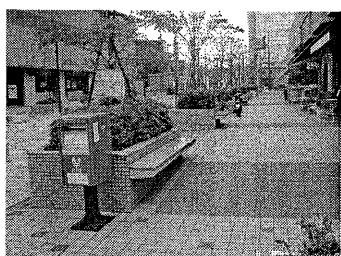


写真 15. 駅周辺整備状況その1

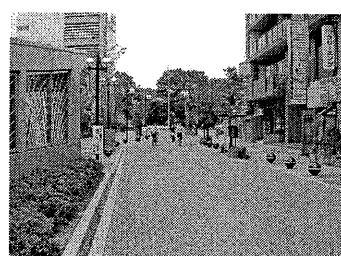


写真 16. 駅周辺整備状況その2

2.4. 神戸港中突堤中央ターミナルの状況

兵庫県神戸市にある「神戸港中突堤中央ターミナル」は、小型旅客船及び小型クルージング船のターミナルであり、高齢者、障害者等の方々の移動円滑化対策を総合的に講じたアメニティターミナルのモデル地区として位置づけられ、整備されている。整備計画においては、設計前、設計素案の段階で高齢者・障害者・関係専門家のヒアリングを実施し、当事者ニーズの把握やアドバイスを考慮して計画されている。

施設の利用状況をみると、点字ブロックによる誘導、シースルーのエレベーターや手摺による誘導、使いやすい自動販売機、車イスでも使いやすい高さの低い受付カウンター・電話台・洗面台など、誰もが使いやすい工夫が見られ、良く配慮された施設であると感じた。また、入口案内板も誰もが使いやすい工夫が見られた。

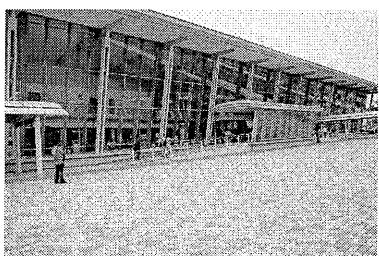


写真 17. 港側の外観

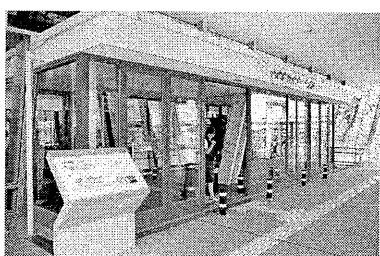


写真 18. ターミナル入口

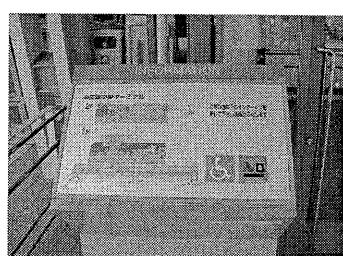


写真 19. 入口案内板

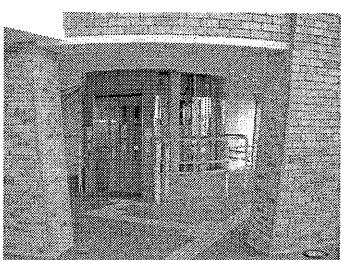


写真 20. エレベーター

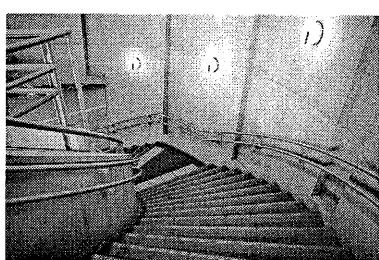


写真 21. 手摺付階段



写真 22. ユニバーサルデザインの自動販売機

3.今後の取り組み

ユニバーサルデザインは、人々が持つ様々な特性や違いを超えて、すべての人に配慮したデザインをしていくとする考え方であり、ひとつのパートにおいても様々な視点からデザインする必要がある。このため、今後ともハード面の多面的な検討が必要であるが、施設計画・設計を行う専門技術者だけでなく、人間工学、心理学、医学、生理学といった専門家や一般利用者、障害者の連携なくしてはユニバーサルデザインの施設は考えられない。また、施設の運用方法等におけるソフト面での構築も重要である。

ユニバーサルデザインは様々な視点が必要であり、様々な工夫や改良が必要になる。今回の視察による現場の配慮された施設のデータを整理するとともに、今後とも先進事例を調査する機会をつくり、ユニバーサルデザインについて考えていく必要がある。全国的なユニバーサルデザインの取り組みを見ると、静岡県では行政が中心となり、全県にわたってまちづくりに限らずユニバーサルデザインに取り組まれており、機会を作り視察に行きたいと考えている。

4.おわりに

日本福祉のまちづくり学会関西支部・日本人間工学関西支部共催企画である見学会とシンポジウムに参加できたことは、ユニバーサルデザインの現状を知る上で幸運であったと考えている。ユニバーサルデザインは、今後ともハード面、ソフト面の構築は重要であり、ユニバーサルデザインをすべての人に周知することも重要である。このため、行政による広報活動や学校・家庭における教育等が重要であると考えている。

最後に、参加者の方々のご協力により本視察研修が無事終了したことに心より感謝するとともに、本稿のために資料及び写真提供いただいた方々にお礼申し上げます。以上